

第10回橋本市都市計画マスタープラン策定合同委員会 「現世代・次世代のための都市・街のデザイン」

2023/2/10



2023/2/10

主なテーマ

1. 都市計画マスタープランに対する市民意見（他市での意見）

「目標は、市役所の制御下に無い社会現象に対して、合理性の無い目標を掲げている。」

2. 現世代・次世代の市民のための都市計画

3. 都市計画を実現する骨格・エネルギー

「理解・信頼・共感」が骨格・エネルギーである。

「豊かな自然と文化・歴史を基盤に、農商工のモノづくりが育つ賑わい住宅都市」のデザインが共感を育む。

橋本市の「カタチ」のデザイン？

1. 都市計画は都市づくり

都市づくりは「庭づくり」であり、都市の次のカタチを創りこんでゆくことである。成果は、都市の価値づくりとなる。

都市計画は、カタチの組み立て(ビルドアップ)に、総合的に取り組むことである。「理解・信頼と共感」をエネルギーに、次のカタチを総合的に組み立て、都市の次(NEXT)を誘導する。

よって、都市マスの目標は、市役所の制御下に無い社会現象に対しても、目標を掲げている。多面的・重層的に、都市・街づくりに関与、影響していくことは重要。

2. 現世代・次世代の市民のための都市計画

都市計画を具体的に展開するには、市民の理解、信頼づくり、関係者の合意づくり、資金づくり、都市を取り巻く環境の将来探索など、多くの困難がある。しかし、この困難を解決すること自体が、都市計画の重要な一歩である。

都市計画は、紛れもなく市民の為のものである。市民の「自由に、寛げる、居場所づくり」は、都市計画にとってきわめて重要である。

(○「ゆるくて自由 私たちの学校図書館」(『朝日新聞』夕刊2023/2/2) ○「瀬戸内市民図書館のコンセプトは「もちより・みつけ・わけあう広場」」(『朝日新聞』2023/2/4)

橋本市民の意見(自由記述)

○市長が前面に出て情報を発信すべき。○町の中心がさびれ過ぎていて、それを見て判断して橋本に魅力を感じない人はいると思う。○高齢者や子育て世帯向けの政策ばかり○子どもも大人たちも集える図書館。便利なところに公園などほしい。○橋本駅周辺の再開発、市街化区域と市街化調整区域を定め無秩序な町作りをやめ、エリアの整備、人を呼ぶ政策。○紀の川の河川敷を利用して、春、秋の活動しやすい季節に、川と山の景色を見ながら、地元の農作物や手作り工芸品をアピール、楽しむ企画。○真剣に未来に向けてまちづくりするのか疑問を感じる。橋本駅前には約40年間放置、市外の人々は口を揃え、これが駅前とびっくりしている??それを知らんぷりする市。

3. 都市計画を実現する骨格・エネルギー

「データから情報、情報からデザイン」

世界には多種・多様なデータが溢れている。データから目的に対して有用な情報を創る。情報を基に、都市・街をしっかりとデザインする。

今日、世界のモノづくり、経済では、アイデア、デザインが重要となっている。例えば、アパレル、家電、情報機器、家具、自動車、住宅

豊かな市民生活を支え、実現する都市・街の物的環境のデザインが必要。

都市の価値をつくるには、「こだわり」のデザインをすることが重要。

都市計画の目指す姿「豊かな自然と文化・歴史を基盤に、農商工のモノづくりが育つ賑わい住宅都市」

○持続的発展を支え、進める活力源、文化の発信源。
中小規模都市では住宅群の集積必要。

○現在・未来では、相当規模の住宅群（街・施設を支える需要者群、同時に、その供給者群）、図書館、文化施設、四季観ある庭園的公園、植栽のある余裕のある歩道（遊歩道）、商業・生活サービスの店舗、飲食店等

○住宅都市としての価値を高め、外部評価を得ることが必須

中心となる街・メインストリートの育成

歴史、文化、防災など意識醸成、発信する拠点整備

○人・経済活動を育て、文化的結合を創る「装置」としての都市・街。都市・街は、単なる建物等の構造物の集積ではない。「育て、創る装置」である。

○多様な世代の市民の豊かな日常生活の早期実現
市民の高齢化を考慮し、中高年の市民、高校生が自由に時間を過ごせる場づくり、「滞在型」場づくりが、非常に重要となる。

市民のための都市計画 中心となる街・メインストリートの視覚的構想(早期の実現性ある一案)

○豊かな市民生活を支え、実現する物的環境づくりとして、人的、知的刺激を得て、集い、憩える場づくり(中心街、図書館、小公園、陽当たり良い散歩道、ベンチなど)が必要。

○重要な市民ファーストを考慮する早急実現、物的な環境の集積が比較的容易さ、等を考慮すると、現状では、JR高野口駅より遠くなく、歴史的遺産も近傍にある地区に、せせらぎ公園を活用し、近傍にデザイン性ある図書館を整備し、中心となる街・メインストリートの育成を図ることが適切であろう。

○都市・街における創造性、文化、経済の芽を育てる

橋本市の「カタチ」

○橋本市の「カタチ」として、何を指すのか。

都市・街づくりには「基本的に住宅都市であること」は重要。住宅都市として評価を得るには、特色を創造する。

カタチのデザイン？林間都市、田園都市でなく、河畔都市ではないのだろうか？

○2050年、地方中枢都市を含むほとんどの地域で人口減少となる。次なる成長戦略を模索することが必要。高度経済成長の終焉と大規模インフラ投資が一巡する。新たな経済成長を促す起爆剤が必要である。

カタチづくり、価値づくりこそが、起爆剤である。

四万十川のデザイン「日本最後の清流」

高知県の西部を流れる一級河川、全長196km、流域面積2186km²。奥四万十地域の津野町、梶原町、中土佐町、四万十町を貫き、四万十市から太平洋へと注ぐ四国最長の河川。本流に大規模なダムが建設されていないことから「日本最後の清流」と呼ばれる。しかし、高知県内では、知名度では劣るものの仁淀川の方に水質では軍配が上がる（「仁淀ブルー」）。



高知・梲原町のデザイン「隈研吾の小さなミュージアム」
世界的建築家・隈研吾氏の大きな特徴の一つ、木材を
ふんだんに用いた建築。ルーツとなったのは高知県梲
原町。小さな町にある6つの隈研吾作品。

○梲原町総合庁舎: 四万十川源流の豊かな自然環境
に育まれた梲原産の杉材をふんだんに使用

○梲原町立図書館「雲の上の図書館」: 知の拠点に留
まらない、梲原という“地の拠点”



○「...よりよい社会のためには、市民社会と強固な文化的連続性について、はっきりした感覚を持つ必要がある。そうした文化の連続性の中でこそ、人びとの「相互信頼」や「地域的な自主の感覚」は培われる。」(米社会学者ダニエル・ベル)

○多感な若者(Z世代、1996年から2015年の間に生まれた世代)に対して「価値、文化」を感じられる都市づくり。人は幼少期や青年期に受けた影響により、その後の消費傾向や価値観が決まっていく、と言われている。

○「...都市計画は、いろいろな規制やさまざまなやり方を学べば十分であるというような学問ではない。都市計画は行動することである。」(ロベール・オーゼル/駒田知彦訳(1974)『都市計画の鍵』彰国社)



Kaiwai Support Center
街づくり支援センター

10回にわたる都市計画マスタープラン
策定合同委員会の委員、お疲れさま！で
した。

「生き生きとした日常」が感じられ、市民
、来街者が集う、都市・街の実現を期待し
ます。

